



本市では、職員の自己啓発支援の一環として、市政を取り巻く課題などについて調査研究するグループ活動を支援しています。

八王子市総務部職員課人材育成担当

地方分権が進展する中で、自治体自らが政策責任の主体となって、多様化する住民ニーズに応えていくことが求められています。このため、自治体職員に求められる能力・役割は変化しており、従来の公務員の枠にとらわれない柔軟な思考で、自ら課題を認識し、解決できる自立型の職員を育成していくことが自治体における重要な課題となっています。本市では、平成13年に『人材育成基本方針』を定め、「人事制度」、「職場づくり」、「研修制度」を一体として、職員の育成に取り組んでいます。

ここで紹介する自主研究グループ活動への助成制度( )は、研修制度の要の一つである自己啓発への支援です。この制度には、制度を設けて以来延べ49グループ392名の職員が参加してきました。ここ数年は、新人職員のグループが自身の業務の枠を超え、市の現状や課題を幅広く学ぼうという勉強会を行っている傾向がみられます。また、自らの業務を深く調査研究することで、業務への精通やスキルアップを図ろうとする活動も行われています。

平成20年度は、これから紹介する5つのグループが活動を行いました。

グループ名	テーマ
基礎職務能力の向上を目指す会	自治体職員に求められる基礎職務能力の向上について
保育士スキルアップの為の勉強会	育てにくい子どもへの理解・遊び・子育て支援
「楽しく温暖化対策」研究グループ	市民の環境活動（地球温暖化対策）を盛り上げる
八王子の文化探検隊	市制20周年当時（昭和11年前後）の市政とその時代を調べ、若手職員たちが地域と市政に関心を深める機会とする
複式簿記研究会	複式簿記の基礎を学び、自治体会計との相違点を研究する

( )自主研究グループ活動助成制度とは

市政の様々な課題について自主的に調査研究を行う3名以上の職員のグループ活動を支援し、自己啓発意欲の高揚や政策形成能力の向上を図ることなどを目的としています。助成の対象は、図書などの購入費や指導・助言者に対する謝礼などです。また、平成17年度からは、都市政策アドバイザーから活動内容に対する助言を受けられるようになっています。

//// 人材育成担当の思い //////////////////////////////////////

日々の業務の中で、疑問に感じたり、もっと深く学んでみたいと思ったりすることは誰にでもあるでしょう。こうしたことを疑問や興味に終わらせず、一歩踏み出して自ら学び、行動し、業務改善につなげることも、また、そうした主体性を持った職員に育つことを、人材育成担当は応援しています。

注) 各グループの「メンバー紹介」に記載されている所属及び名前は、平成21年3月末時点のものです

# 基礎職務能力の向上を目指す会

代表：八王子市総務部法制課 原 清

## 研究目的

私たちの目的は、第1に地方自治の諸分野に関する知識を深めること、第2に政策形成や事務改善を行う上で不可欠な基礎職務能力（文献、資料を的確に要約する能力、所定の条件で分かりやすくプレゼンテーションする能力、文献、資料及び他者の意見に対する的確にコメントする能力など）の向上です。

## 研究内容

地方自治や行政関連の図書を精読のうえ、レポートを作成し、月1回開催する勉強会で発表、意見交換を行っています。当日は、座長である財団法人日本都市センターの中西規之研究員、及びアドバイザーである介護保険課の木内課長が、参加者の発言に対する説明やコメントをされ、それらを交えて議論することで、理解を深めていきます。また、課題図書の内容に応じて、研究者や他自治体職員の方をゲストに招いてお話を聞くこともあります。こうした活動は、より広い知識と職務能力を習得する機会となり、基礎職務能力の向上につながると考えています。

開催日	課題図書	開催日	課題図書
20.11.5	『『基礎自治体』の姿』 月刊ガバナンス 2008年8月号	21.1.9	『自治体職員が知っておきたい危機管理術』 大塚康男
20.12.5	『都市自治体の政策研究』 (財)日本都市センター	21.2.6	『行政対象暴力Q & A』 行政対象暴力問題研究会

## 代表者コメント

当会は、今年で4年目を迎えました。今年度は勉強会での時間配分を見直し、要約・発表を中心としたスタイルから議論中心のスタイルに変更しました。その結果、各参加者の発言機会が増え、積極的に自分の意見を述べることや、各参加者の職場経験を聞くことを通じて、課題に対する様々な視点や情報を得ることができています。



月刊『ガバナンス』2009年8月号の記事「“付加価値創造型”の人材育成をめざし、自主研究活動を支援」(ぎょうせい)で、当グループの取り組みが紹介されました。

## メンバー紹介

所属	名前	所属	名前
法制課	原 清	協働推進課	立川 寛之
法制課	浅野 菜摘	政策審議室	元木 博
法制課	金子 正明	税制課	谷 靖之
観光課	竹内 均	税制課	小杉 浩文
経営監理室	高野 芳崇	税制課	柳沢 盛仁
行革推進課	福田 純	税制課	竹之上 義浩
職員課	田中 寿定	住民税課	最上 和人
障害者福祉課	清水 雅生	学園都市文化課	吉岡 淳二
障害者福祉課	畑嶋 怜子	市民課	伊藤 光代
高齢者支援課	杉山 浩一		

# 保育士スキルアップの為の勉強会

代表：八王子市こども家庭部子ども家庭支援センター 遠藤 由実子

## 研究目的

私たちは、八王子の子どもたちが健康で心豊かに育つことができるよう、また、子育て中の保護者に対して適切な支援ができるよう、専門講師を招いて様々なテーマで勉強会を開いています。目的は、勉強会を通じて保育士の資質向上を図ることです。

## 研究内容

現場で子どもたちと関わる保育士にとって「子どもの問題に気付く」ことは非常に重要です。そこで八王子の保育士の「気付きの目」を養うため、乳幼児の運動発達や軽度発達障害の学習に取り組むべく、20年度は以下のような内容で勉強会を実施しました。

開催日	勉強会のテーマ	参加者数	概要
20.5.22	湯浅とんぼさんの 手あそび・歌あそび	80名	歌あそびについての本を出版されている湯浅先生を招き、保育現場で活用できる手あそび・歌あそびを学ぶ
20.10.24	乳幼児の運動発達の 理解と実践	49名	乳幼児の運動発達に基づき「どのような関わりをしていくことで、どのような力が伸びるのか」を学ぶ
20.12.4	おもちゃの与え方・ パペットの意義と製作	55名	子育てツールの一つとしてのパペットの意義と使い方を学び、実際に靴下パペットを製作する
21.1.29 21.2.25	軽度発達障害への理解 (2回開催)	58名 60名	軽度発達障害(アスペルガー・ADHD・LD・高機能自閉症等)を持つ子ども達への理解と関わり方を学ぶ
21.3.17	谷ぞうさんの 手あそび・歌あそび	61名	NHK教育テレビで歌あそび番組の監修をしていらっしゃる谷ぞうさんを招き、保育現場で活用できる手遊び・歌あそびを学ぶ

## 代表者コメント

3年目を迎えるこの勉強会は、八王子に勤務する公立・民間保育園の保育士で構成されており、毎回参加者が多く皆さんのやる気を感じています。20年度は、「現場で直面する問題への理解と対応」を重視してテーマを選択し、全6回の勉強会を開催しました。いずれも約50~80名の参加者があり、熱気あふれるものとなりました。

今後は、これまでの勉強会を通じて私たちの中に生まれた問題意識について話し合い、ときには専門家の方々のご指導もいただきつつ解決していく、という活動を行っていききたいと思います。

## メンバー紹介

所属	名前	所属	名前
中野保育園	前田 嘉子	長房南保育園	中能 睦子
中野保育園	田中 美香	子育て支援課	峰尾 真弓
長房中央保育園	伊東 利恵	子育て支援課	松風 町子
長房中央保育園	田中 かほる	子育て支援課	杉本 浩恵
石川保育園	柏葉 よし江	子育て支援課	水野 美幸
石川保育園	鈴木 美智	子育て支援課	福島 光子
石川保育園	高橋 豊世	子ども家庭支援センター	畑中 祐子
石川保育園	山本 優	子ども家庭支援センター	湯浅 典子
長房南保育園	早川 歌与子	子ども家庭支援センター	遠藤 由実子

# 「楽しく温暖化対策」研究グループ

代表：八王子市環境部環境政策課 水越 敦

## 研究目的

私たちの研究グループは、世界的な課題である地球温暖化問題を題材にして、環境に対する市民の意識を高め、具体的な環境保護活動に結びつけるためのプロモーション手法を開発することを目的としています。

## 研究内容

市の温暖化対策事業「はちおうじ省エネ国」のキャラクター「えこちゃん」、「グリちゃん」を使い、子どもたちが楽しく省エネに取り組めるアイテムの企画、製作を行いました。

### オリジナルボードゲーム「えこちゃんグリちゃんの省エネゲーム」

すごろくのように盤上を移動しながら、正しい「省エネカード」の場所を記憶し、当てていくゲームです。

メンバーが実際に遊んでみて、試行錯誤を繰り返すことで、年齢に関わらず楽しめ、遊びながら自然に省エネ行動を覚えることができるよう工夫しました。



左：ボードを上から見たところ 右：ゲームで使うコマ

### オリジナルDVD「えこちゃんグリちゃんの 省エネだいすき！」



左：DVDのジャケット 右：アニメの一場面

「省エネ」をモチーフに、子どもたちが覚えやすい歌詞をリズムカルなメロディーに乗せ、楽しいアニメーションをつけてDVD化しました。メロディーやアニメーションは、メンバーのご家族の協力を得て制作しています。

また、可愛い絵が印象的なジャケットもオリジナルです。

## 代表者コメント

メンバーの特技、趣味を活かすことにより、楽しみながらどこまで質を高められるか挑戦してみました。結果として市販品に近いレベルのものが出来上がったと思います。

今後は、このボードゲームやDVDを使って、温暖化対策のための活動をどのように展開していくか、検討したいと考えています。

## メンバー紹介

所属	名前	所属	名前
環境政策課	水越 敦	環境政策課	鎌田 哲弥
行革推進課	福田 純	政策審議室	元木 博
介護サービス課	服部 真治	協働推進課	渡辺 剛
広聴広報室	前島 薫	住民税課	村石 雅紀
行革推進課	井上 明子	協働推進課	山波 和代
環境政策課	楳津 聡	環境政策課	神津 崇

# 八王子の文化探検隊

代表：八王子市総合政策部市史編さん室 渡部 恵一

## 研究目的

私たちは、八王子の地域と市政に関する知識を深めるため、八王子に残る多様な「文化」を検証しました。市制施行 100 周年を 8 年後に控えた今、改めて過去の事例を振り返るとともに、八王子とそこに生きる人びとをよく知りたいという意識から、市制施行 20 周年を迎えた昭和 11 年の市制 20 周年行事に関する政策と、当時の市民生活を考えることにしました。

今回注目した昭和 11 年とは、戦争の足音こそ聞こえていたものの、さほどの閉塞感はなく、むしろ社会が一定の成熟期を迎え、市民がいきいきと活躍した時代でした。そこで、この年に催された市制 20 周年行事と、それを取り巻く市や市民の研究を通して、歴史を見る目を養い、調査研究の手法を学びました。

## 研究内容

各自が図書館等を活用して、昭和 11 年頃の時代背景を大まかに把握し、研究成果を報告しあいました。次に、年表や歴史書を参考にしながら、当時の社会状況を理解するため、発刊されていた新聞の地方版(多摩版)から、市制 20 周年行事に関わる記事の目録化を進めました。

この結果、市勢調査、郷土史の編さん、市歌の公募と制定、庁舎改築、祝賀行事と功労者表彰、という 5 つの記念事業が計画されていたことがわかりました。さらに、市民からも行事などの計画が持ち上がるなど、市を挙げての一大イベントだったことが理解できました。

今後は、現在の調査研究を継続し、更なるデータの蓄積と資料の分析を進めるほか、聞き取り調査や地域研究者の講演会も実施し、活動の幅を広げていきたいと考えています。また、当時の市民や市役所職員の動きについても、さらに深く調査を行いたいと思っています。



## 代表者コメント

私たちのグループは、人数の多さを活かした調査力と団結力で、課題解決を進めています。これからも、八王子の文化の調査・研究を行い、公表したいと考えています。また、今後も新聞記事のデータベース作成と充実に取り組み、ゆくゆくは公表できるよう整理を進めます。

月刊『ガバナンス』2009年8月号の記事「“付加価値創造型”の人材育成をめざし、自主研究活動を支援」(ぎょうせい)で、当グループの取り組みが紹介されました。

## メンバー紹介

所属	名前	所属	名前
市史編さん室	渡部 恵一	防災課	草木 隆宏
建築課	田口 沙央里	暮らしの安全安心課	久江 行貴
広聴広報室	橋本 宏子	協働推進課	山口 洋輔
IT推進室	加藤 実	生涯学習総務課	渡辺 隼
会計課	小澤 加奈	川口図書館	伊藤 綾子
交通事業課	大出 武弘	資産税課	福嶋 雅麗
教育総務課	浦尾 年史	北野地域事務所	荻田 佳苗
納税課	小西 淳	地域医療推進課	杉岡 貴子
資産税課	川久保 正太	環境政策課	鎌田 哲弥

# 複式簿記研究会

代表：八王子市会計課 田倉 洋一

## 研究目的

私たちは、複式簿記の基礎を学び、自治体会計との相違点を勉強しています。現行の自治体会計は現金主義の単式簿記ですから、税金等資金の使い道は把握できるものの、資産や負債の状況を明らかにすることはできません。一方、企業会計では資金調達や借入残高をすぐに把握できる複式簿記が一般的です。当会は、将来、自治体会計に複式簿記が導入される日に備えて、その特徴を研究することを目的としています。

## 研究内容

平成20年7月下旬から10月上旬にかけて、業務終了後に会計課の打合せスペースに集まり、市内で開業されている税理士の方（細野税務会計事務所の細野浩子氏）を講師にお招きして、全6回（7月30日、8月7日、8月19日、9月9日、10月1日、10月8日）の研究会を開催しました。使用したテキストは、日商簿記3級の試験問題集などです。主に問題を解き進めながら、貸借対照表（B/S）、損益計算書（P/L）といった財務諸表の見方や、複式簿記の基礎を学習しました。

研究会を通して、複式簿記の基礎を学ぶと同時に、これまで自治体で使用されてきた単式簿記の問題点である「『借金』の存在が把握しにくい点」を確認しました。単式簿記では、「歳入」と「歳出」の内訳に、「借金による収入」、「借金返済のための支出」が当たり前のように入り込んでいますが、収支が均衡していればそれで「よし」となっています。これでは「借金残高」も、いつの間にか膨らんでしまうわけです。

しかし、複式簿記では、「貸借対照表（バランスシート）」、「損益計算書」などの財務諸表により、どこから資金を調達したのか、借金の残高はいくらあるのか、利益をいくらあげることができたのかなど、一目でわかるようになっています。そうすることで、組織が明日以降も生き残れるように、絶えず財務の健全化を図ることが可能になるのです。

既に、「簡素で効率的な政府を実現するための行政改革の推進に関する法律」などによって、国から「貸借対照表」、「行政コスト計算書」、「資金収支計算書」、「純資産変動計算書」の財務書類4表を整備するような指導もあり、本市でも財政課が中心となって新たな財務諸表の作成など、自治体経営における複式簿記化への動きが始まっています。

## 代表者コメント

将来の公会計制度改革を見据えて、今回このような自主研究会を立ち上げ、講師の方を招き、複式簿記の基礎を学ぶ機会を得たことは、参加した職員にとって大変有意義なものでした。また、企業の税務申告や顧問をされている税理士の先生から、企業経営の実態に関する話を聞き、会計制度の重要性を理解できたことは、メンバー全員にとって貴重な経験でした。

今後は市の研修に「複式簿記の基礎知識の習得」を目的としたものを加え、公会計制度に対する職員の意識や、複式簿記に対する認識を向上させる必要があると考えています。

## メンバー紹介

所 属	名 前	所 属	名 前
財政課	長谷部 晃一	会計課	畠山 由紀
財政課	小澤 寛	会計課	小澤 加奈
経営監理室	野村 秀郎	会計課	田倉 洋一
税制課	小杉 浩文	会計課	中村 敬
住民税課	前田 佳孝		